

第4章 隊員配属先概要

活動中隊員及び派遣予定隊員の配属先概要を以下に示す。

いずれの配属先にも共通する問題として、隊員住居が挙げられる。今回の巡回先でも、壁に大きな亀裂が入っていたり、壁そのものが崩落してしまった隊員住居があった。住居に関しては、協力隊活動はもとより生活の基盤であることから、十分な整備が必要である。

4 - 1 ダコロ郡立病院

派遣隊員名(隊次)	鈴木千恵美(新規・平成11年度3次隊・看護婦) 犀川修平(新規・平成11年度3次隊)
派遣予定隊員名(隊次)	(交替・平成13年度秋募集により、平成14年度1次隊にて派遣予定)
配属先名	マラディ県ダコロ郡立病院
所在地	マラディ県ダコロ郡ダコロ村
カウンターパート	Mr. Issou Fou DAN MAIGARI(疫学者)
職員数	医師1名、看護婦(士)7名(うち無免許2名)、助産婦1名、衛生士1名、臨床検査技師1名、アシスタント2名。ダコロ郡全体では約30名。
年間予算	2000年:15,071,000CFAフラン(=約250万円) 2001年:不明
管轄地域	ダコロ郡全域(10診療所を管轄)
主な業務内容	一般診療、産科、母子保健指導等
ポリオ撲滅運動への取り組み	村診療所や母子保健センターを巡回し、ポリオ患者の報告を確認する。サーベイランス、全国一斉ワクチン投与時に見つかったハイリスク地域に対する追加接種活動を行っている。
面会者	Mr. Mahamadou Aboubakar(事務局長)
隊員活動内容	ポリオ監視活動を中心とした衛生教育全般の啓蒙活動 予防摂取率・ポリオハイリスク地域周辺の調査、急性弛緩性麻痺患者のサーベイランス、全国ワクチン一斉投与への参加、保健等を対象としたポリオ研修の企画実施
隊員執務室の有無	あり
隊員活動における巡回先	管轄下の10の診療所を中心にダコロ郡内を巡回
巡回の移動手段	ポリオ車(JOCV車輛)、郡病院車輛、貸与バイク
住居の提供	あり
配属先問題点	ダコロ郡は広く、隅々まで巡回するのは困難であるが、管轄する診療所を中心に活動を拡大していくことが必要である。

4 - 2 ギダンルンジ郡立病院

派遣隊員名(隊次)	平川啓子(新規・平成11年度2次隊) 澤田紀久(新規・平成11年度2次隊)
派遣予定隊員名(隊次)	安藤裕子(交替・平成13年度2次隊予定)
配属先名	マラディ県ギダンルンジ郡立病院
所在地	マラディ県ギダンルンジ郡ギダンルンジ村
カウンターパート	Ms. Salissou RAHAMOU(疫学者)
職員数	医師1名、看護師、衛生士、助産婦他、計郡内に50名程度
年間予算	2000年:11,390,000CFAフラン=約200万円 2001年:20,890,200CFAフラン=約350万円 2002年:未定
管轄地域	ギダンルンジ郡全域。175村。 7診療所を管轄。さらに2つの診療所の開設が計画されているが、時期は未定。
主な業務内容	医療行為全般(但し、手術などは電気がないため行っていない)及び衛生指導、母子健康保健等
ポリオ撲滅運動への取り組み	全国ワクチン一斉投与の実施、母子保健巡回始動時における母親に対するワクチン接種の必要性の啓発活動、村の保健員への指導等
面会者	Dr. Mounkaila IDRISSE(主任医師) Ms. Salissou RAHAMOU(疫学者、澤田、平川両隊員C/P)
隊員活動内容	ポリオ監視活動を中心とした衛生教育全般の啓蒙活動 予防摂取率・ポリオハイリスク地域周辺の調査、急性弛緩性麻痺患者のサーベイランス、全国ワクチン一斉投与への参加、保健等を対象としたポリオ研修の企画実施
隊員執務室の有無	あり
隊員活動における巡回先	管轄下の7つの診療所を中心としたギダンルンジ郡内を巡回
巡回の移動手段	ポリオ車(JOCV車輛)、郡病院車輛、貸与バイク
住居の提供	あり
配属先問題点	現在派遣中隊員の配属時にはモチベーションがあまり見られなかったが、隊員の活動が軌道に乗るとともに徐々に協調体制が強化された点が評価できる。2名の隊員配置に対し1名のC/Pでは隊員の活動上必ずしも全ての点において有効であったとは言えないとの指摘もあるが、今後は1郡1隊員体制が展開されるので、この点については改善されるものと期待される。

4 - 3 マダルフア郡立病院

派遣予定隊員名(隊次)	(新規・平成13年度秋募集により、平成14年度1次隊にて予定)
配属先名	マラディ県マダルフア郡立病院
所在地	マラディ県マダルフア郡マダルフア村
カウンターパート	疫学者
職員数	医師1名、助産婦1名、看護師6名、看護婦3名、衛生士2名、臨床検査技師2名、用務員6名他
年間予算	2000年:26,073,333CFAフラン(= 約440万円) 2001年:不明
管轄地域	マダルフア郡全域(9診療所を管轄)
主な業務内容	医療行為全般(血液検査、便検査、マラリア検査は可能だが、HIV検査は不可能)、衛生指導等
ポリオ撲滅運動への取り組み	全国ワクチン一斉投与の実施、村の保健員への指導等
面会者	Mr. Mainasarl MAJE(事務局長)
隊員活動内容	ポリオ監視活動を中心とした衛生教育全般の啓蒙活動 予防摂取率・ポリオハイリスク地域周辺の調査、急性弛緩性麻痺患者のサーベイランス、全国ワクチン一斉投与への参加、保健等を対象としたポリオ研修の企画実施
隊員執務室の有無	あり
隊員活動における巡回先	管轄下の9つの診療所を中心にマダルフア郡内を巡回
巡回の移動手段	ポリオ車(JOCV車輛)、郡病院車輛、貸与バイク
住居の提供	あり。但し、補修要。
配属先問題点	配属先は隊員受け入れに対し非常に積極的だが、初めての隊員受入のため、最初のうちは配属先の期待と隊員の能力との間にギャップが生じる可能性あり。特に、C/Pの疫学者は非常に優秀とのことなので、ポリオについて基本的なことしか分からない隊員は、配属当初は戸惑うことも考えられる。

4 - 4 アギエ郡立病院

派遣予定隊員名(隊次)	田中愛(新規・平成13年度3次隊予定)
配属先名	マラディ県アギエ郡立病院
所在地	マラディ県アギエ郡アギエ村
カウンターパート	Dr. ADA Mahaman Idi(主任医師) Mr. Yahaya Boudah Kaussen(疫学者、45歳、隊員C/P)
職員数	医師2名、看護婦(士)11名、助産婦3名、臨床検査技師3名、衛生士2名、疫学者1名等。 アギエ郡全体で約60名。
年間予算	2001年:14,350,200CFAフラン(= 約240万円)
管轄地域	アギエ郡全域(7診療所を管轄)
主な業務内容	医療行為全般、衛生指導等
ポリオ撲滅運動への取り組み	全国ワクチン一斉投与の実施、村の保健員への指導等
面会者	Dr. Ada Mahaman Idi(主任医師) Mr. Yahaya Boudah Kaussen(疫学者、隊員C/P)
隊員活動内容	ポリオ監視活動を中心とした衛生教育全般の啓蒙活動 予防摂取率・ポリオハイリスク地域周辺の調査、急性弛緩性麻痺患者のサーベイランス、全国ワクチン一斉投与への参加、保健等を対象としたポリオ研修の企画実施
隊員執務室の有無	あり
隊員活動における巡回先	管轄下の7の診療所を中心にアギエ郡内を巡回
巡回の移動手段	ポリオ車(JOCV車輛)、貸与バイク
住居の提供	あり(但し、未確定)
配属先問題点	隊員住居が未定であり、アギエ郡庁に強く要請するよう主任医師に依頼した。住居手配が間に合わない場合は13 / 3派遣予定の隊員の配属先を変更する旨伝えた。

第5章 隊員・シニア隊員アンケート結果

5 - 1 隊員活動について

(アンケート対象者：シニア隊員を除く一般隊員4名、回収数3)

(1) 現時点での目標達成度

当初の活動計画から見た活動目標の達成度は、「概ね達成されている(7割以上)」が2名、「あまり達成されていない(6割以上)」が1名であった。これは、文化、宗教観の違いから来る妥協を自己評価したことにより達成度が低く見積もられたことにもよるが、実際に活動を実施した地域ではそれなりに成果が見られているとの自己評価もなされている。

スタッフの協力隊への理解やサポートという点では、協力的ではあるもののスタッフの本来業務が多忙であることや財政難といった制約が、活動を阻害する要因となっている。

カウンターパートの知識・経験・能力は、活動開始以降程度の差こそあれ確実に向上している。

技術移転を促進した要因としてはグループ派遣による組織力によるところが大きく、逆に技術移転を阻害した要因としては財政難や受入国側の寄付慣れによる低いモチベーションが指摘されている。

総合的に見ると、派遣当初と比較して確実に協力体制が整備されつつあるものの、目標としているレベルにはまだ至っていないと言える。

(2) 計画の妥当性

隊員に対する配属先のニーズはあるものの、この中には「いないよりはいた方が良い」「ないよりはあった方が良い」といった程度のものもあると隊員は感じているようだ。

隊員自身の職種(「ポリオ対策」及び「看護婦」と配属先の求める技術の種類及びレベルについては特に支障はない。しかし、ポリオに対する配属先の活動不足と協力隊の目的が合致した反面、医療のバックグラウンドを持たない隊員の医療機関への配属という風土病等対策職種特有の派遣形態を受入側がなかなか理解できなかった面があることが、着任当初隊員の活用について配属先の明確な考えや認識がなかったという指摘につながっている。

ニジェール国におけるポリオ対策グループ隊員はいずれも新規派遣であったが、同国がポリオ根絶計画の最終段階にあり、ポリオに対する意識もある程度浸透しワクチン一斉投与の実施時期だったので、派遣のタイミングとしては良かったと評価できる。

いずれの隊員配属先も後任隊員を要請したが、この点については、継続した活動の重要性から、隊員自身も「派遣が望ましい」あるいは「派遣が不可欠である」と指摘している。

(3) 効率性

実際に配置されたカウンターパートの人数については、隊員の技術移転を効果的に進めるのに特に支障はなかった。ただし、2人の隊員が1つの配属先に派遣される場合、スムーズな業務遂行という点からはカウンターパートは2人いた方が良いとの指摘があった。この点については、2代目隊員以降1任地1隊員制となるので、活動の効率性を確認していくべきである。

カウンターパートの知識・経験・能力レベルは着任当初から支障がなかった、あるいは高かったうえ、隊員がモチベーションを与えることができた結果、このレベルはさらに向上した。

派遣前訓練は効果的であったものの、ポリオ対策グループに配置されると予め分かっている看護婦隊員にはポリオ対策隊員の技術補完研修を受講させる必要がある。

現地語学訓練は効果的だが、受け身の教室型授業はあまり役にたたなかったと言う隊員もいる。この隊員は、最初の3か月間ホームステイと語学訓練をしてはどうか、と提案している。

(4) インパクト

隊員としての活動は日本では経験できない異文化体験なので、技術、任国に対する理解、言語能力、コミュニケーション能力等の面で、自己の成長にかなりのインパクトを与えているといずれの隊員も自己評価を下している。

(5) 自立発展性

隊員としての活動により配属先やカウンターパートの技術が向上したと評価している反面、今後彼ら自身で活動を継続していくことができるかどうかという点、及び、配属先やカウンターパートの勤務姿勢や組織体制が向上し今後も継続されていくかどうかという点については、隊員により肯定的な回答と否定的な回答とに分かれている。

2005年のポリオ撲滅宣言に向け2004年までの隊員派遣を予定しているが、仮に何らかの事由によりポリオ撲滅宣言時期が遅れたり隊員派遣が打ち切りになった場合、配属先やカウンターパートの自立発展性が十分確立されていれば隊員なしでもポリオ根絶活動への影響は限定的なものになるので、今後全ての隊員がそれぞれの配属先の自立発展性を育む必要がある。

(6) 協力隊活動の運営管理

いずれの隊員も配属先のカウンターパートとのコミュニケーションは支障なく行われたと評価している。

住居や生活環境については、2人の隊員が同じ機関に配属された関係で隣接した住居で生活することとなったが、病気等の緊急事態の際はメリットがある反面、語学学習上あるいは精神衛生上必ずしも効果的ではない場面もある点が指摘されている。また、地方の村落での活動だったため、物珍しさからの覗き、物乞い、からかい等に悩まされたり、降雨による住居の壁崩壊という危険な目に遭い転居を余儀なくされたり、相手国提供の住居が家賃未払いのため大家から直接苦情を受けた隊員もいた。住居に関しては、協力隊活動はもとより生活の基盤であることから、十分整備していく必要がある。

隊員支援経費については、申請しなかった隊員もいたが、ポリオ対策グループの予算として文房具、ガソリン代等が承認された隊員もいた。

5 - 2 グループ派遣について

(アンケート対象者：一般隊員及びシニア隊員計5名、回収数5)

(1) グループ派遣隊員として活動してきた中での良かった点、悪かった点

良かった点：

- リーダーがいることによる活動の方向性の明確化
- 非グループ隊員より広い活動範囲
- 意見交換、他隊員の活動等による解決策等の検討

悪かった点：

自由な活動の制限

全員の集合が必ずしも容易ではない

他隊員の活動から感じるプレッシャー

(2) 協力隊をグループで派遣することの得失

得：

車両等の使用によるダイナミックな活動（より広い活動範囲、より多い対象者）

グループの目的がはっきりし、各隊員の意欲・協力があればマイナスにはならない

失：

人数が多すぎるとまとまりづらい

グループがまとまらなければ最悪

他隊員の活動を完全に理解することが困難

対象が多くなる分、一人一人との関わりが薄くなる

(3) グループ派遣実施に際しての事務局への提案

「住民の生活の中に入った活動」が必要

1 任地 1 隊員制（2 代目派遣隊員より実施）

2 地域（県）に派遣し、結果を比較検討する

多すぎない程度の人数の隊員配置（10 人以下程度）

シニア、専門家等のリーダーの配置

首都及び活動地域へのリーダーの配置

より多くの予算確保

現地スタッフの人件費を予算に組み込めるようにする

5 - 3 グループ活動について

（アンケート対象者：一般隊員及びシニア隊員計 5 名、回収数 5）

(1) グループ活動はこれまでのところ成果があったか。また、その理由。

A 成果があった 2 名

B 一応の成果があった 2 名

C あまり成果がなかった 1 名

D 成果がなかった 0 名

（理由）

保健員研修を実施した結果、住民の行動として成果が現れた

国レベルでのポリオ対策会議で隊員が実施している研修が高い評価を受けた

シニア隊員を中心として計画的活動ができた

後任隊員への引継の下地ができた

保健員研修を実施した結果、住民のポリオに対する意識付けを行え、AFP（急性弛緩性麻痺）症例報告率が上がった

便検体輸送支援を実施した

全国一斉ポリオワクチン投与に参加した

AFPサーベイランス活動を行った

カウンターパートの活動意欲を刺激した
グループとしての有機的な活動がなかった

(2) グループ活動がニジェール国に及ぼしたと考える影響(対象区分別に記載)

A 対象地の住民

保健員の選抜、研修の実施により、「ポリオ撲滅」「AFPサーベイランス」に対する知識及び意識が向上した
住民が病院に来るようになった
AFP症例報告率の向上が見られた
協力隊の存在を認識するようになった
定期予防摂取率の向上が期待される

B 対象地の近隣住民

対象地の住民との交流により、近隣住民の「ポリオ撲滅」「AFPサーベイランス」に対する知識及び意識が向上した
AFP症例報告率の向上が見られた

C 郡レベル

「ポリオ撲滅」「AFPサーベイランス」に対する意識が向上した
協力体制が向上した
隊員が派遣されていない郡からの協力隊派遣要請が聞かれるようになった
郡立病院、診療所単位で計175村に保健員を配置し、郡内の40%以上の村をカバーできた(ギダンルンジ郡)
隊員が派遣されていない郡に比べ、医療関係者のポリオ理解度は高い

D 県レベル

「ポリオ撲滅」「AFPサーベイランス」に対する意識が向上した
隊員が派遣されていない郡でも隊員活動に興味を持ち始めてきた

E 国レベル

協力隊の存在が、WHO、保健省、予防接種拡大局、保健情報システム局等の国レベル以上の関係機関から注目されるようになった
定期的なポリオ対策会議に出席したり、保健員研修が国レベルで紹介されたりした結果、協力隊が認識されるようになった
ポリオ対策隊員が派遣されていない県からの派遣要請が聞かれるようになった
国民のポリオに対する関心を高めた
隊員派遣前後で状況は何も変わっていない

(3) 活動期間中の事務局の支援体制は満足いくものだったか。また、その理由。

- | | |
|--------------|----|
| A 満足している | 1名 |
| B まあまあ満足している | 4名 |
| C あまり満足していない | 0名 |
| D 満足していない | 0名 |

(理由)

PDM作成に対する指導、アドバイスがあった
車両、資金の提供があった

技術専門委員及び巡回指導調査団が派遣された
WHO等との交渉に参加した

(4) 活動期間中の事務所の支援体制は満足いくものだったか。また、その理由。

- A 満足している 0名
- B まあまあ満足している 5名
- C あまり満足していない 0名
- D 満足していない 0名

(理由)

討議、技術的会合等、公的な場に出席した
技術専門委員及び巡回指導調査団が派遣された
車両、資金の提供があった
隊員活動に対する理解があった
活動の方向性に対する助言があった
村の状況をもっと見てくれるとなお良い

(5) 活動期間中のニジェール国の支援体制は満足いくものだったか。また、その理由。

- A 満足している 0名
- B まあまあ満足している 2名
(BとCの間 1名)
- C あまり満足していない 2名
- D 満足していない 0名

(理由)

隊員活動に対する関心、理解、評価があった
情報提供があった
時々意見をくれ、相談に乗ってくれた
国を挙げて計画されているポリオ撲滅であるにもかかわらず、県レベルにおいてさえ
専門の担当者がいない
資金の出し渋りがあった
活動のほとんどが隊員任せだった
車両、資金等の援助を期待しているようだった
真剣にポリオを撲滅したいと思っているのか疑問だった
ポリオ以外の病気への対応に追われ、ポリオ対策がおざなりにされたことがあった
郡レベルでは配属先から様々な協力を受けたが、国レベルでは感じるものがなかった

(6) 活動期間中の関係機関(WHO等)の支援体制は満足いくものだったか。また、その理由。

- A 満足している 0名
- B まあまあ満足している 0名
(BとCの間 1名)
- C あまり満足していない 3名
- D 満足していない 1名

(理由)

隊員活動に対する関心、理解、評価があった

資金援助の点では当初非常に協力的だったが滞るようになった

援助体制についての発言が協議の度が変わるので信頼できない

「ポリオ撲滅」「AFPサーベイランス」「全国一斉ポリオワクチン投与のあり方」等についての隊員側からの提言を理解しているようだが、受け入れようとしない(資金援助を依頼する立場としては強い態度で出られないのがもどかしい)

ポリオ撲滅を掲げる機関の対応とは思えない

全国一斉ポリオワクチン投与等の資金の拠出については計画性が欠如しているように思える

関係機関と一致協力している印象はなかった

参考資料

- 1 ダコロ郡遊牧民に対するポリオワクチンアンケート.....37
- 2 遊牧民に対するポリオワクチンアンケート結果.....39

1 ダコロ郡遊牧民に対するポリオワクチンアンケート

< QUESTIONNER >

1. Age de l'enfant 7 -----ans-----mois Inconnu

2. Sexe 男性 M F

3. Ethnie 平均方 Hausa Peulh Touareg Bororo Autres

4. Déplacement { 来た場所 とどこからどこへ (村の移動、又は郡県)} Oui Non
 市外町村間

5. Si < Oui > Déplacement dans la même localité. 郡内
 もし「はい」 Déplacement dans la region. 県内
 Déplacement à l'intérieur du pays. 国内
 Déplacement à l'extérieur du pays. 国外
 (Nigeria Benin Mali Autres)

6. Votre enfant a été une fois vacciné contre la polio ?
 あなたの子供は 一度はポリオ Oui Non Inconnu
 ワクチンを受けておられますか

7. Si < Oui >, Où est-ce qu'il a été vacciné ? もし「はい」 → どこで
 各種施設
 Formation sanitaire JNV NIRS
 Vaccination mobile Autres
 モバイル 各地

8. Cicatrice BCG { ちゃんと確認可なり } BCG 痕の有無 Oui Non

9. Si < Non >, Pourquoi vous ne lui avez jamais fait la vaccination ?
 BCG ではなく VPO
 ne connais pas la vaccination. ワクチンを知らない
 ne connais pas l'endroit où se fait la vaccination. どこで受けるか
 6-7がもし「はい」なら → どうして
 difficulté d'accès pour se faire vacciner. ワクチン受けるのに困難
 Il y a des interdits pour se faire vacciner. 禁止
 autres. その他

10. Connaissez-vous la vaccination polio ? Oui Non
 ポリオ (ワクチン) を 知っていますか

名前を知りたい。それが何か分からない場合もある。その辺りに言えなくはない。

(Oui...Qu'est-ce que c'est ?)

11. A l'avenir, voulez-vous faire vacciner vos enfants ? Oui Non

(Non...Pourquoi ? 子供をワクチン接種させたいのか)

12. Si vous voulez vacciner vos enfants, où les amenez-vous ?
もし、接種させたいのならどこへ？

先に選択肢を与えないと。
どういふ方法なら可能か。
彼ら自身に考えしてもらおう。

- à la formation sanitaire.
- à la maison. (comme JNV)
- vaccination mobile. (au puits)
- autres

Merci !

2. 遊牧民に対するポリオワクチンアンケート結果

<乾期バージョン：Total 115名>

1. 年齢

0～6ヶ月	7～11ヶ月	12～59ヶ月	不明
30名 (26,1%)	12名 (10,43%)	73名 (63,47%)	0名 (0%)

2. 性別

男	女
68名 (59%)	47名 (41%)

3. 部族

ハウサ	プル	トワレグ	ボロロ	その他
30名 (26%)	30名 (26%)	35名 (30,4%)	19名 (17,6%)	0名 (0%)

4. 移動の有無

有	無
70名 (61%)	45名 (39%)

5. 「有」の場合

郡内	県内	国内	国外 Nigeria	国外 Benin	国外 Mali	その他
47名 (67,1%)	12名 (17,1%)	10名 (14,3%)	1名 (1,5%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

6. ポリオワクチン接種の有無

有	無	不明
64名 (56%)	51名 (44%)	0名 (0%)

7. 「有」の場合、どこでワクチンを受けたか

医療施設	NID	モバイル	その他
14名 (21,2%)	48名 (72,7%)	4名 (6,1%)	0名 (0%)

8. BCG の瘰癧の有無

有	無
29名 (25%)	86名 (75%)

9. 7. が「無」の場合

ワクチンを知らない	場所を知らない	アクセス困難	ワクチンの禁止	その他
26名 (35,1%)	17名 (23名)	27名 (36,5%)	0名 (0%)	4名 (5,4%)

10. ポリオワクチンを知っているか

有	無
54名 (47%)	61名 (53%)

11. 将来、子どもにポリオワクチンを受けさせたいか

有	無
113名 (98%)	2名 (2%)

12. もし受けさせるとしたら、どこで受けさせたいか

医療施設	家 (NID)	モバイル (井戸など)	その他
36名 (30,8%)	56名 (47,9%)	24名 (20,5%)	1名 (0,8%)

2 遊牧民に対するポリオワクチンアンケート結果

<雨期バージョン：Total 149名>

1. 年齢

0～3ヶ月	4～11ヶ月	12～59ヶ月	不明
10名 (6,71%)	37名 (24,83%)	99名 (66,44%)	3名 (2,02%)

2. 性別

男	女
76名 (51%)	73名 (49%)

3. 部族

ハウサ	プル	トワレグ	ボロロ	その他
21名 (14,1%)	69名 (46,31%)	52名 (34,9%)	7名 (4,69%)	0名 (0%)

4. 移動の有無

有	無
70名 (47%)	79名 (53%)

5. 「有」の場合

郡内	県内	国内	国外 Nigeria	国外 Benin	国外 Mali	その他
52名 (74,3%)	13名 (18,6%)	3名 (4,3%)	2名 (2,8%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

6. ポリオワクチン接種の有無

有	無	不明
88名 (59,1%)	60名 (40,3%)	1名 (0,6%)

7. 「有」の場合、どこでワクチンを受けたか

医療施設	NID	モバイル	その他
7名 (8%)	76名 (87,4%)	2名 (2,3%)	2名 (2,3%)

8. BCGの瘰癧の有無

有	無
34名 (22,8%)	115名 (77,2%)

9. 7. が「無」の場合

ワクチンを知らない	場所を知らない	アクセス困難	ワクチンの禁止	その他
26名 (31,7%)	22名 (26,8名)	23名 (28%)	0名 (0%)	11名 (13,5%)

10. ポリオワクチンを知っているか

有	無
33名 (22%)	116名 (78%)

11. 将来、子どもにポリオワクチンを受けさせたいか

有	無
115名 (100%)	0名 (0%)

12. もし受けさせるとしたら、どこで受けさせたいか

医療施設	家 (NID)	モバイル (井戸など)	その他
64名 (41,8%)	64名 (41,8%)	24名 (15,7%)	1名 (0,7%)

<付録>

乾期

- なぜ、ポリオワクチンをこれまで1度も受けたことがないのか？
 - 病院は病気に罹ったら行くところで、ワクチンだけには行かない。
 - 病院に行くと、他の病気に感染してしまう。

- 将来受けさせたいか？・・・「いいえ」
 - 母親（女性）が決めることではない。父親（男性）の決定による。

- ポリオ（ワクチン）とは何か？
 - （知っているとおきながら）名前は聞いた事があるが、それが何かは知らない・・・23名
 - 病気に対する薬・・・6名
 - ポリオに対する薬・・・9名
 - Chan inna（ハウサ語でポリオを意味する）・・・7名

- どこでワクチンを受けさせたいか？
 - （その他）父親がきめた場所

雨期

- なぜ、ポリオワクチンをこれまで1度も受けたことがないのか？
 - （病院の横のダコロ市場で）病院がどこにあるか知らないから。
 - 病気なら病院に行くが、ワクチンだけなら行かない。
 - ワクチンだけ受けに病院に行くと、他の病気をうつされそうだ。

- ポリオ（ワクチン）とは何か？
 - （知っているとおきながら）名前は聞いた事があるが、それが何かは知らない・・・20名
 - 麻疹と百日咳に対する薬・・・5名
 - 髄膜炎の注射・・・1名
 - 栄養失調児の薬・・・1名
 - Chan inna（ハウサ語でポリオを意味する）・・・1名
 - 子どもが立てなくなる病気・・・4名

- どこでワクチンを受けたか？
 - 前回のアンケート調査。
 - ボロロ族のお祭り。